



▲良型の重量感のある引きは病みつきになる  
▶エサはたっぷり付けてアピールしたい



▲エサは冷凍アオヤギ。1人2パックは使う



★待望の大原フグ解禁。40センチ近い大型も上がった



▲手ごわい面もフグ釣りの楽しいところ  
▶食いが立ったら手返しよく釣り数をのばしたい



◀良型フグを掛けたときの重量感がたまらない



▲釣れたフグは船長が身欠きしてくれる



▶解禁初日は大原～太東沖の水深12～26メートル前後を探った

◀早朝は夜光モリが効果的

▼このサイズがそろえば申し分なし



▼利永丸の船着き場は港食堂「いさばや」の前

# 外房大原港出船 良型交じりで手応え十分

撮影◎伊井森洋

**2段カットウが標準状況に応じて1段もよし**

大原沖のフグは2段カットウ仕掛けが標準だが、根周りを攻めるときは1段カットウ仕掛けが比較的根掛かりを避けやすく、入れ食いのときに手返しがいメリットもある。

◀根周りでおすすめしたい1段カットウ仕掛け。ハリス長は15センチ  
▶船宿仕掛けは2段カットウの標準スタイル




でロングランで楽しめるものの、秋口は数釣りの期待も高い時期。今後も良型交じりで好調に釣れ続くことを期待しよう！  
(詳細は48ページ参照)

9月1日、外房エリアのフグ釣りが幕を開けた。解禁初日の取材日は大原～太東沖の水深12～26メートル前後を転々と流し、各船のトップは20～30尾台を中心に50尾以上の好釣果を上げた船もあった。ポイントリサーチをしながらの初日としてはまずまずの結果。何よりピンポン玉と呼ばれるサイズは少なく、25センチ前後の中型主体に40センチ近い大型も交じっていたのが印象的だった。外房エリアのフグは来春まで



◎外房大原港・利永丸 中井 春樹船長